

令和4年4月1日

第18回(令和3年度)
日本原子力学会北関東支部 技術功労賞
選考結果のお知らせ

「第18回(令和3年度)日本原子力学会北関東支部技術功労賞」の選考において、北関東支部表彰に関する細則に基づいて審議を行った結果、次の2件が技術功労賞に該当するとの結論を得ましたので、ご報告致します。

本賞は、北関東支部管内の組織、企業等を対象に、原子力に関する研究開発施設やプラントの運転管理、安全確保等の技術支援分野において優れた貢献をした個人または団体に対して、その功労をたたえるものです。

受賞概要

第36号

国立研究開発法人日本原子力研究開発機構

原子力科学研究所 臨界ホット試験技術部 臨界技術第2課

代表 袖山 博志 殿

○ 受賞案件名

「保障措置技術開発試験室(SGL)の廃止措置の完遂」

○ 受賞概要

原子力科学研究所の保障措置技術開発試験室施設(SGL)は、保障措置技術開発の一環として濃縮施設カスケード内の六フッ化ウラン(UF₆)濃縮度を遠隔的に制御する「光吸収濃縮度モニターシステム」の研究開発に用いられた施設で、1992年度に当該研究開発を終え、2008年にSGLの廃止措置が決定した。SGLは、人体に有害で取扱いが困難なUF₆の使用履歴のある施設のため、廃止措置においては、UF₆の安定化処理を確実にを行い、核燃料物質の搬出、搬出後の設備の解体撤去作業、その後の管理区域解除が行われた。

本件は、廃止措置に係る様々な困難を克服するための工夫を行うことでSGLの廃止措置を完遂するとともに、今後、他施設の廃止措置並びに取扱い難度の高いUF₆の安定化処理作業のモデル事業となることから、歴史的意義が高く、技術功労賞にふさわしいものとする。

○ 受賞者

国立研究開発法人日本原子力研究開発機構

原子力科学研究所 臨界ホット試験技術部、工務技術部、放射線管理部他

袖山博志、會澤栄寿、江口悠太、児島亮平、小林弘夢、頼経勉、早坂克久、石仙順也、伊奈川潤、宝徳忍、森下剣、加藤拓也、平賀隼人、川又弘典、野澤拓也

第 37 号

公益財団法人放射線計測協会 事業推進部

代表 根本 久 殿

○ 受賞案件名

「公益財団法人放射線計測協会における長年にわたる放射線測定器等に対する校正業務」

○ 受賞概要

原子力・放射線の利用事業者及び関係識者から放射線測定器の校正や放射線の測定の事業を専門的に行う公益機関の設置を望む声に応じて、財団法人放射線計測協会は昭和 55 年 10 月 1 日に設立された。本協会は、測定器の校正及び基準照射等の標準の供給を行うとともに、測定器校正の重要性に関する啓蒙活動や測定技術に関する教育に携わってきた。

本件は、長年にわたり信頼性の高い放射線測定器の校正等を実施し、標準を供給してきたこと等により、原子力・放射線利用や研究開発の基盤となる「安全」へ大きく貢献していることから、技術功労賞にふさわしいものとする。

○ 受賞者

公益財団法人放射線計測協会 事業推進部 校正グループ

當波弘一、内田芳昭、高嶋香織、枇々木孝、園原優介、佐藤天斗、塚本華菜、黒澤浩二、安忠義、長洲潤、砂押伸城、石川哲也、海老根麻実

以上